



さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は

目次

P.1…勝ち負けについて / P.2・3…エリアズームアップ! —各地区の活動紹介— 第4回
P.4…20種目に挑戦! ~チャレンジフェスティバル~・2019年度 下期行事・2020年度 上期行事予定

No.19

子育て ワンポイント!

勝ち負けについて

昨年のラグビーW杯では、日本代表の快進撃に日本中がワクワクしました。

そして今年の東京オリンピック・パラリンピックでの日本代表アスリートたちへの期待も膨らんでいます。アスリートも応援する観客も勝つと嬉しいし負けると悔しい、やはり勝負は勝たなくては意味がない……のでしょうか。

勝ち負けにこだわるな。努力は報われる。負けるが勝ち。試合に勝って勝負に負ける。

1位と2位の差は2位と100位より大きい。勝ち組負け組。負け犬。などなど勝負や勝敗に関わる多くの言葉があります。しかし、これらの言葉の真意は人生経験の少ない子どもたちには伝わらないかも知れません。

1 本能的な競争意識

人は競争意識を持ち相手に勝とうとする、生物として生き残るための本能的な意欲を持っています。

幼い頃の兄弟げんかに始まり、運動会、受験、就職、昇進……人生は競争に始まり終わるといっても過言ではありません。勝つことで自信を持ち大きく成長するキッカケになることもあれば、負けたことで意気消沈し成長を阻害する原因になることもあります。しかし逆に、勝ったことの気持ちのおごりがその後の失敗を招くこともありますし、負けた悔しさがバネとなりその後の成功に結びつくこともあります。勝ち負けの結果だけでなく、その勝ち方や負け方にも意味があるということでしょう。



2 適度な目標意識

本来、人は自然に他者と自分を比較して劣等感を持ち、努力することで乗り越えられそうな目標を自分で決めて挑戦します。適度な目標意識は、そのプロセスの中で努力する苦しさや辛さをも挑戦する喜びに感じさせます。達成すると自信を持ち、失敗しても反省につながり過度な自信喪失にはなりません。

しかし、他者からの強制された目標への挑戦は、達成されればまだ良いですが、失敗は大きな心の傷となることもあります。何としても勝たなければならない、勝つためには何でもする、勝った者は偉い、負けた者は努力が足りないなどの

評価基準は、失敗した時には全部自分に跳ね返りますので、負けることを恐れて挑戦意識を喪失したり、目標意識を持ったり努力することすら出来なくなることがあります。

強いから勝つ、弱いから負ける……だけではなく、勝つから強くなっていく、負けるから弱くなっていく、勝ち続けていると自分が強いように勘違いしてきますし、負けが込むと自分は無力のように錯覚してきます……。「適度な目標意識」を持ったり与えたりすることこそが成長には必要なのです。

3 子どもを観察

「お兄ちゃんに負けないように」「妹でも出来るのに」「〇〇中学に受かるように頑張ろう」「有名企業じゃないと恥ずかしい」「そんなことも出来ないのか」など、それが本人にとって適度な目標設定なのかを見極めないと、励ましや応援のつもりが大きなプレッシャーになって、子育ての目標である自立や自律を阻害してしまうことを知っておかなくてはなりません。

そのためには、常日頃から子どもをよく観察し、何に興味があるのか、何が得手不得手なのかを知ることがとても大切です。そして、子どもが自発的に決めた目標に向かって努力する姿に対して叱咤激励し、成功を喜び、失敗を慰めましょう。



自ら望んで挑んだ勝負には勝たねばならない。そのための努力は勝敗の結果よりも貴重です。くれぐれも親の欲を子どもで満たすために勝負をさせないように気を付けましょうね。

